

第16回夢アイデア

大きな公園と小さなマチ — 保育所と児童センターの新しい形 —

背景

昨今、「子ども・子育て支援新制度」が平成27年4月から本格的に施行され、子どもの健全な育成と社会全体で子育てができる環境づくりを推進しています。

保育所及び児童センターは子ども・子育て支援の核となる施設であり、利用する子どもにとって、明るく親しみがあり、かつ子供の視点に立って快適で安全なものでなければなりません。

また、保育士等職員が円滑に活動できるための工夫も必要です。

今後の児童福祉施設（保育所・児童センター等）のスタンダードとなるような新しいアイデアを提案します。

提案概要

保育所は、保護者が就労の理由等により保育できない0歳～小学校入学前までの乳幼児を家庭に替わり、保育を行う施設と位置付けられており、子供たちにとっては「もう一つの家（ウチ）」です。

保育所と児童センターは同一敷地内の併設ではそれぞれの施設機能が相互作用をもたらす「保育所×児童センター」の実現を目指し、子ども・子育て支援を核とした地域共生の施設づくりを目指します。

そこで「保育所×児童センター」は従来の「もう一つのお家（ウチ）」という概念を超え、子供たち小さな社会体験を与えるマチのような空間を創出し、「ウチからマチへ」を計画方針とし、成長過程における共同生活体験・

触覚体験・視覚体験など豊かな個性を育むことができる環境づくりを提案します。

提案内容

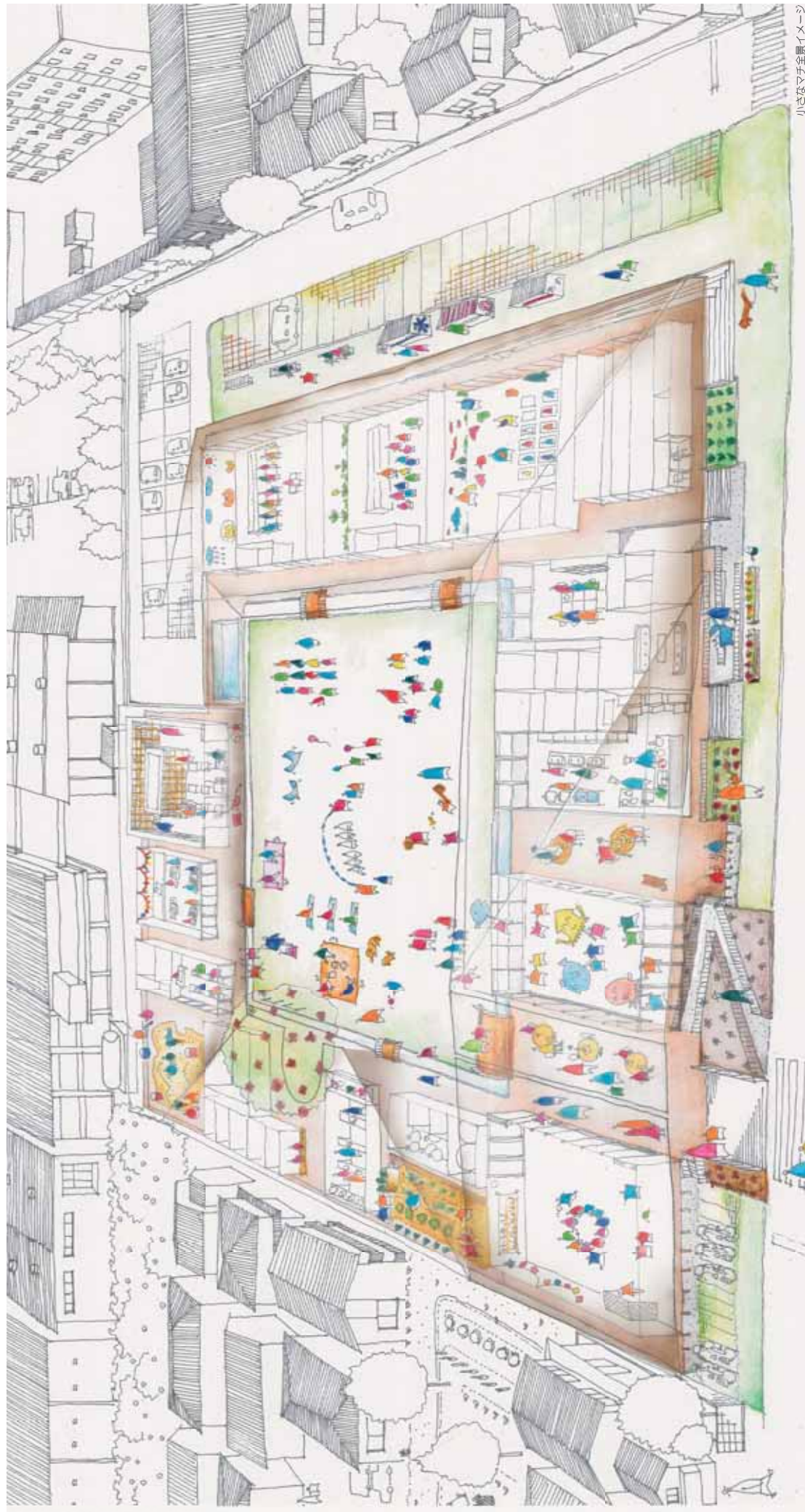
- ①誰もが気軽に立ち寄れる公園のような場所を創造し、保育所と児童センターの機能が公園を中心に集まる「マチ」のような建築をつくります。
- ②それぞれの機能が有機的な関係を築く回廊は連続したスケール感と回遊性を持ち、マチを巡る体験を表現した歩いて楽しめる環境を

つくります。

- ③回廊の中に小さな広場を点在させ、各機能の相互作用の誘発や誰もが
お気に入りの居場所を見つけられる空間をつくります。
- ④八幡浜の歴史文化である木造モダニズムの雰囲気を継承し、地元の
木材の活用や地元の大工さんが作れる木造工法とします。
- ⑤敷地を囲む豊かな自然に呼応し、風土に適した自然の中で子どもた
ちが育つ環境を作ります。
- ⑥保育所と児童センターの連携を大切に、「マチで保育」の考え
方を醸成（使いながら完成）します。

大きな公園と小さなマチ

保育園は、保護者が就労の理由等により保育園で保育(0歳～小学校入学前)までの乳幼児を家庭に替わり、保育を行う施設と位置づけられており、子供たちにとっては「もう一つの家(ウチ)」です。本計画に求められる保育園と児童センターは同一敷地内の併設ではそれぞれの施設機能が相互作用をもちます。「保育園×児童センター」の連携を目的とし、子ども・子育て支援存続とした地域共生の施設づくりを掲げます。そこで「保育園×児童センター」は従来の「もう一つの家(ウチ)」という概念を超え、子供たち小さな社会体験を与えるマチのような空間を創出し、「ウチからマチへ」を計画方針とし、成長過程における共同生活体験・触覚体験・視覚体験など豊かな個性を育むことができてきる環境づくりを提案します。



小さなマチ全層イメージ

■設計コンセプト

- 誰もが気軽に立ち寄れる公園のような場所を創出し、保育園と児童センターの機能が公園を中心に集まる「マチ」のような建築をつくります。
- それぞれの機能が有機的な関係性を築く回廊は連続したスケール感と回遊性をもた、マチを巡る体験を表現した歩いて楽しめる環境をつくります。
- 回廊の中に小さな広場を点在させ、各機能の相互作用の誘発や誰もが気軽に立ち寄れる居場所を見つめられる空間をつくります。
- 八幡坂の歴史文化である木造モダンスタイルの雰囲気を継承し、地元の木材の活用や地元の大工さんが作れる木造工芸とします。
- 敷地を思い豊かな自然に呼吸し、風土に適した自然の中で子どもたちが育つ環境を作ります。
- 保育園と児童センターの連携を大切にして、「マチで保育」の考え方を醸成(使いながら完成)します。



Fig.1 誰もが気軽に立ち寄れる公園



Fig.2 公園を囲むように保育園と児童センターの機能を配置

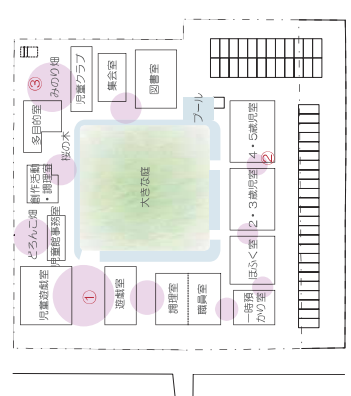


Fig.3 各機能が回廊で繋ぎ外に開く。マチを巡る体験(回遊性)が生まれ、各々の活動が溢み出る縁側のよう空間を創出

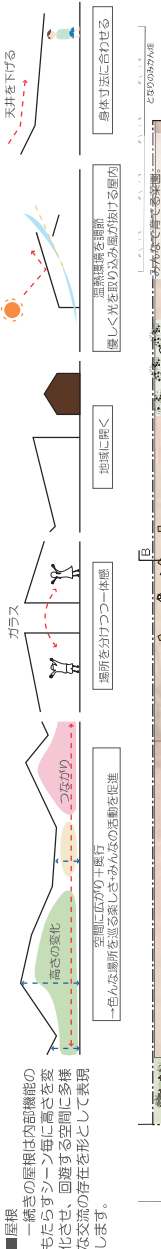
■用途が読み出す

家(ウチ)同士が幅の異なる機軸で繋がり、狭い場所や広い場所、明るい場所や暗い場所といった、まるで小さなマチのよ...

■屋根 一続きの屋根は内部機能の児童センターという市民のための施設を保護所に併設させる...

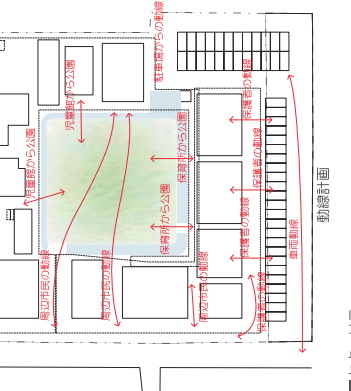


読み出した用途同士が交わる様々な場所は



線画の骨組みは、子育て相談や保護者同士の交流を促進し、子育てを助ける場...

■積極的に開く 児童センターという市民のための施設を保護所に併設させる...



動線計画

■セキリティ 開園時はシー(光景)に合わせた変わるフレキシブルなセキ...

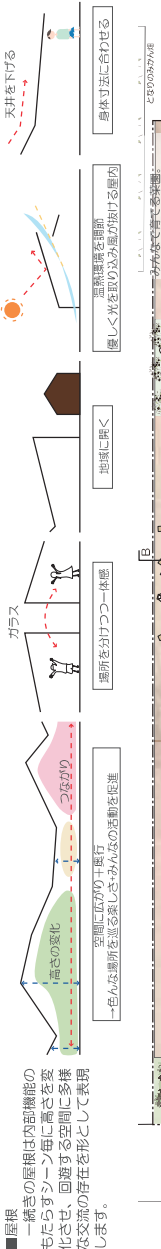


シー別セキリティライン

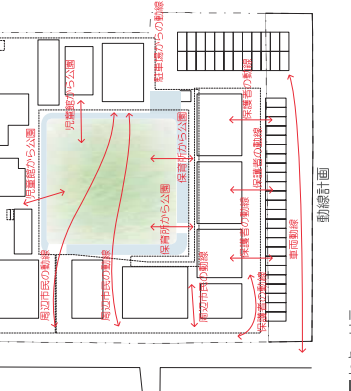
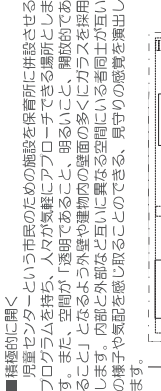
■マチのみならずプロセス 計画から、建設、その後の施設利用に至る幅広い市民参加...



①児童遊戯室×遊戯室ニまよいの市



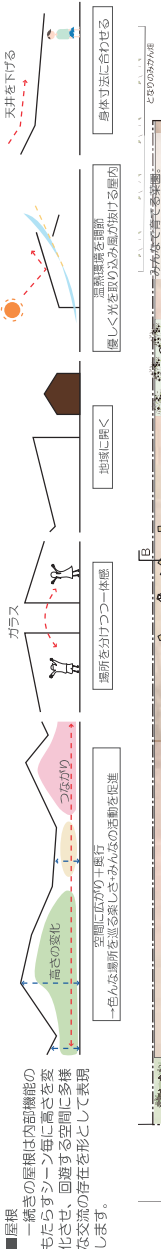
②23歳児童×45歳児童ニ似顔絵展



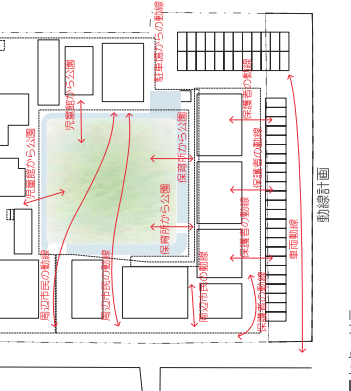
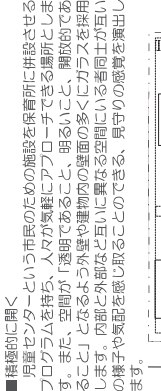
平面図兼配置図 1:300



③児童クラブ×多目的室×みのり組二取壊築



【見例】



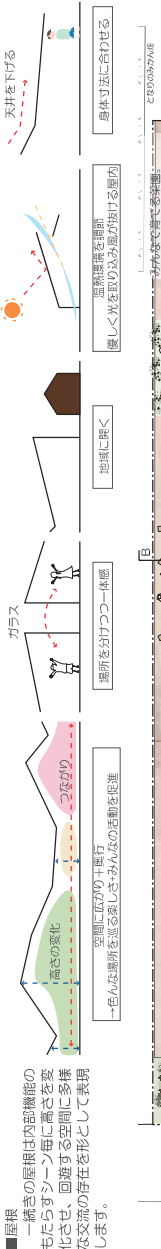
AM 730 保育所の開園時間



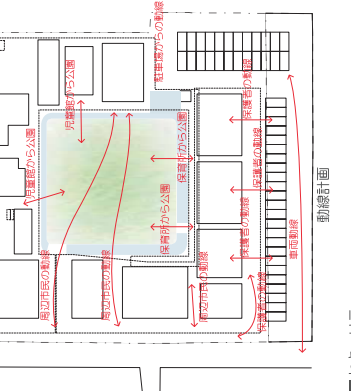
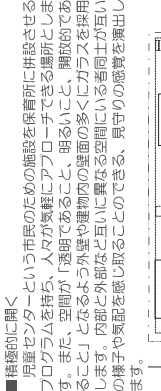
AM 900 室内の保育時間



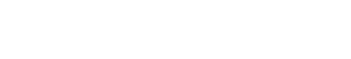
AM 1100 放課後の時間



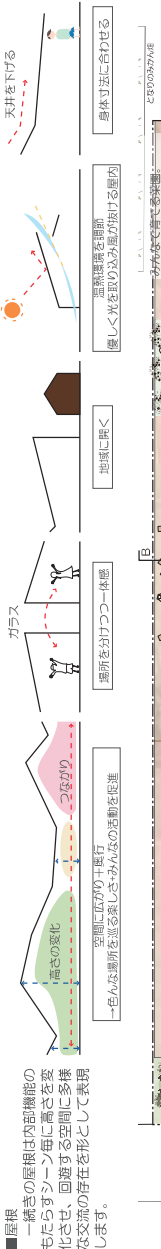
PM 000 夜間の時間



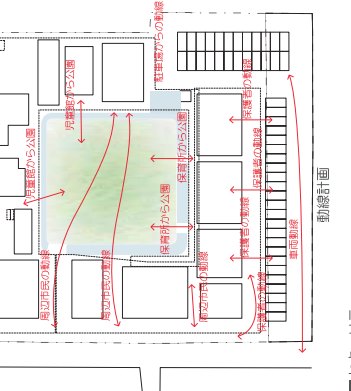
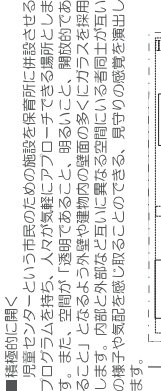
PM 3000 保護者の帰郷後



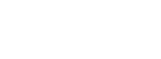
PM 630 朝の時間



PM 3000 保護者の帰郷後



PM 630 朝の時間



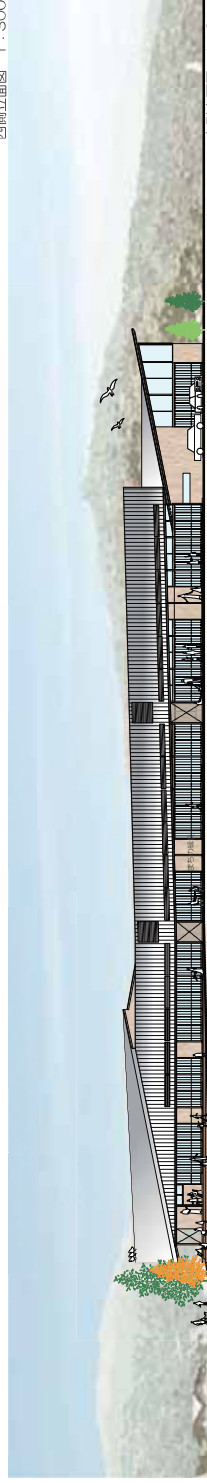
PM 630 朝の時間

平野であり、各所で必要な高さや種別、様々な勾配で組み合わせた一枚の屋根（連続屋根）は、山並みに調和したシルエットを創出します。

地産産材である桐材の大きさを最大限に活用します。施設利用者に木の温もりを提供するとともに、地元の人々にふれられる空間体験をもたします。また、建物構造はシンプルな木造在来組工法を基本とし、地元の大工さんが作れる建築とします。尺目法を用いたモジュール設計によって、建物を構築します。柱・梁のプレカット加工や運具などの汎用品活用が可能にて、コストダウンや工期短縮にも寄与します。

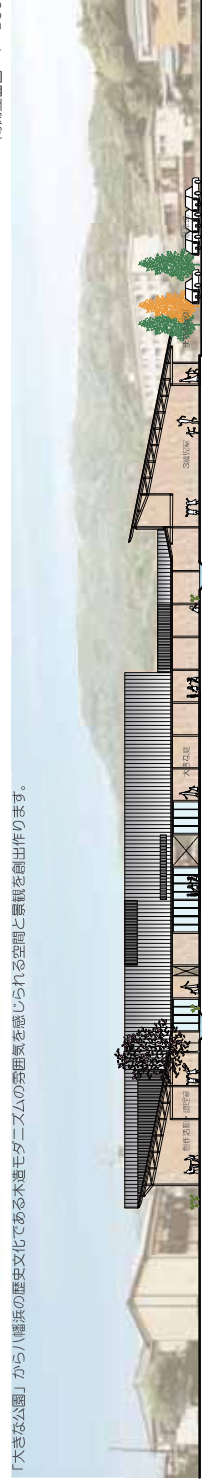


西側立面図 1:300



南側立面図 1:300

「大きな公園」から八幡浜の歴史文化である木造モダニズムの雰囲気を感じられる空間と景観を創出作ります。



AA' 断面図 1:300



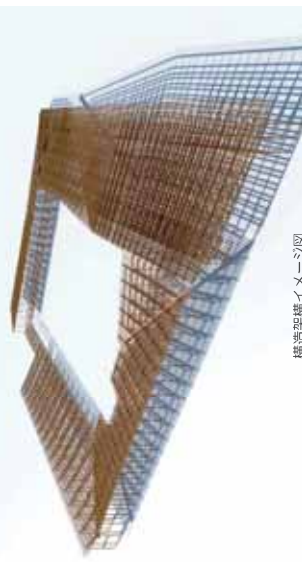
BB' 断面図 1:300



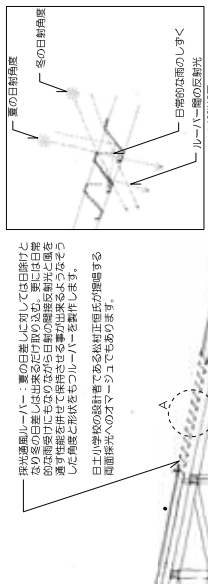
マナ回土が繋がる緑地



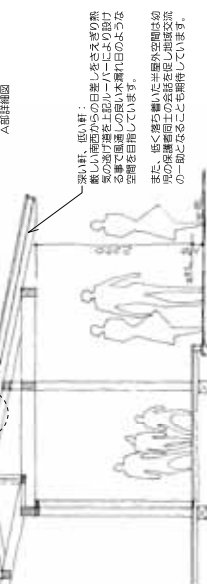
回廊からマナ中庭を望む



構造成構イメージ図



採光要素ルーバー：夏の日照に対しては日照射しとなり冬の日照しは出来るだけ取り込む、更には日照的な採光にもなりながら日照の調整動作と風を通す機能を併せて保持させる事が出来るよう、さまざまな角度と形状をもつルーバーを製作します。日工の学校の設計書である放射正偏光が影響する周囲光へのオマージュでもあります。



深いH、低いH：深いH側面からの日照しをさき取り熱の逃げ道を上部からルーバーにより取り除き、深いH側面からの日照しをさき取り熱を逃がすように設計しています。また、深く高く集めた半屋外空間は幼少の子どもが遊ぶことにも期待しています。



ルーバー-矩形イメージ図

保育室から公園を望む